

平成29年12月定例会市議会市政報告

平成29年第5回釧路市議会12月定例会の開会にあたり、9月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

最初の報告は「JR北海道単独で維持困難な線区への対応」についてであります。

釧路地方総合開発促進期成会の第4回「JR花咲線・釧網線対策特別委員会」を去る10月13日に開催いたしました。

特別委員会では、北海道より山谷副知事ご出席のもと、花咲線・釧網線の必要性について、議論を推進するための情報提供があったほか、鉄道ネットワーク・ワーキングチームフォローアップ会議座長で北海道大学大学院の岸准教授から、鉄道のあり方を地域で考えるための論点について、ご助言を頂いたところであります。

これを受け、特別委員会の下に作業部会を設置し、両線区の必要性についての検討・分析作業を進め、11月17日の第5回特別委員会において了承されるとともに、同日出席された北海道に受けとめて頂いたところであります。

本報告書では、花咲線は生活交通として住民生活を守るとともに、北方領土隣接地域と中核都市を結ぶ路線であること、また、釧網線は広域周遊観光の基幹的な路線として、国・北海道・釧路地域が進める観光施策の推進に不可欠であるとともに、都市機能の拠点を有機的に結ぶ路線であることなどが結論付けられたところであります。

北海道におきましては、地域で議論される鉄道の必要性を踏まえながら、「交通政策に関する新たな指針」の策定に本年度取り組むこととされていることから、今後も北海道をはじめ関係機関と連携を図りながら、本地域にとって極めて重要な社会基盤である花咲線・釧網線の存続に向け取り組んでまいりたいと考えております。

報告の第2は「釧路市まちづくり基本構想シンポジウムの開催」についてであります。

去る10月10日に、新たなまちづくりの指針であります「釧路市まちづくり基本構想」の目指すべきまちづくりについて、市民の皆様と共に考える機会としてシンポジウムを開催いたしました。

当日は300名に及ぶ市民の皆様にご参加を頂きました。冒頭、私からは市の課題と目指すべきまちづくりについて報告をさせて頂き、小磯策定市民委員会委員長から市民委員会での議論の内容や地域として長期的なビジョンを共有することの重要性についてご説明を頂きました。

第二部では、策定に携わった市民委員会委員の方々によるパネルディスカッションを行い、コミュニティの結び付きの必要性について地域、職域、学識、若者の視点からご意見を頂くなど、これからのまちづくりの要となる域内連関について考える機会となりました。

今後も市民の皆様と様々な機会を通じまして、まちづくりに必要な情報の共有を図りながら市政の推進に努めてまいりたいと考えております。

報告の第3は「台湾訪問」についてであります。

本年は特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」の発見命名120周年にあたることから、これを記念して発見命名者である川上瀧^{たきや}彌氏が初代館長を務めた国立台湾博物館で開催された特別展「川上瀧彌と阿寒の自然」のオープニングセレモニーなどに出席するため、去る12月1日から12月4日の日程で台湾を訪問いたしました。

12月2日に開催されたセレモニーには、釧路市から市議会議員の皆様ほか、釧路日台親善協会など市民訪問団の皆様が参加される中、栽培マリモの贈呈やマリモ展示水槽の除幕式を執り行いました。

除幕式終了後は、本市の若菜マリモ研究室長が「北海道と台湾の新たな比較研究に向けて」というテーマで記念講演を行いました。

午後からは、釧路市動物園からタンチョウのつがい「ビック」と「キカ」を貸与している台北市立動物園において、展示・研究用の栽培マリモを贈呈するとともに、岡部教育長と金動物園長との間で「マリモの貸与に関する釧路市教育委員会と台北市立動物園の覚書」を交わしました。

マリモにつきましては、今後、常設展示のための栽培技術や研究情報を提供するなど、タンチョウに続く学术交流を図り、同動物園の協力を得ながら二つの特別天然記念物の普及並びに釧路・阿寒の自然に関する情報発信に努めてまいりたいと考えております。

また、翌12月3日には、本年9月に「台湾サイクリング招へい事業」で釧路にお越し頂いた台湾の皆様や今後参加予定の皆様など約100名を対象としたイベント「ひがし北海道・釧路サイクリングナイト in 台北」に参加し、来年度のツアー造成に向け、プロモーションを行ってきたところであります。

今後も引き続き、釧路を訪れる外国人旅行者の半数以上を占める台湾からの誘客促進に努めてまいりたいと考えております。

報告の第4は、「釧路公立大学の開学30周年」についてであります。

釧路公立大学につきましては、昭和63年4月に釧路管内の市町村で構成する一部事務組合方式により設置され、本年で開学30年目を迎えましたことから、歴任教員や関係者など180名がご臨席のもと、去る10月7日に記念式典が開催されました。

これまで7,500名を超える有為な人材を輩出してきた釧路公立大学が、地域の高等教育機関として今後も長く歴史を刻めるよう、構成市町村の中核としての役割を果たしてまいりたいと考えております。

報告の第5は、「**工事発注状況**」についてであります。

本年度の建設事業の発注予定額は、約147億6,000万円となっており、11月末現在における発注済額は約141億8,000万円であり、発注率は、約96%となっております。

このうち、地元企業への発注は、金額で約135億8,000万円、率では約95.8%であります。

主な建設事業別の発注率につきましては、道路事業が約96%、上水道事業で約99%、下水道事業で約97%、住宅建設事業は100%の状況となっております。

以上で、市政報告を終わります。